

<b>Title</b>	子どもの心のゆくえ(第二回東日本大震災国際神学シンポジウム：分科会報告 G)
<b>Author(s)</b>	平田, 美保
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所紀要, No.56, 2013.10 : 156-159
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4929">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4929</a>
<b>Rights</b>	

SERVE

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

## 子どもの心のゆくえ

平田 美保

震災から二年経った今、被災地において子どもたちと共に歩むことの意味を一緒に考える分科会を持った。参加者人数は約二〇名であった。

最初の三〇分間は、どのような形で子どもたちへの支援活動が始まったのか、また実際の現場では、子どもたちにとってどのような変化が起きているのかをプロジェクトを使ってパワーポイントで説明した。後半には、参加者が小グループに分かれ、これからの支援活動に必要なものは何か、神様が「よかった」と思える世界はどのようなものなのか、というテーマでディスカッションが行われた。このような分科会の流れにしたのは、実際の現場にいざ立ったときに、子どもたちにどのような声かけが一番必要なかを想像してみてほしかったからである。被災地の状況をただ聞くだけでは、どこまでいっても目線が部外者のままになりがちである。現場では被災以降、毎日その現実から目を背けることができずに生きている人々がいる。それを一緒に想像して、自分ができること、また、してほしいことを一緒に考える時間を持つことが、被災地の回復のパワーにつながると考えている。

## 1. プレゼンテーション

Solaでは週に一度のペースで数カ所の仮設、集会所で学習支援とレクレーションの時間を子どもたちと持ち、日常を失った子どもたちの日常を取り戻すという働きをしている。非日常にどれだけ日常を増やしていくか。それは地道な作業であるが大切な作業である。なぜならその日常が増えていくことによつて子どもたちの情緒は安定していくからである。

壊れた日常は簡単には戻らない。瓦礫は消えても元の町並みは戻っていない。

しかし、彼らはその場所で毎日を過ごしていく必要がある。子どもたちは自己表現をあまりしないが、多くの苦しみを経験し、その現場の中で毎日を歩んでいる。そして、その中でうずくまっているのではなく、自ら希望を見出し、その一日を元気に歩いていこうと努力している。そして子どもの目線の先には、その子どもたちをきちんと見つめている目線がある。それは大人の目線である。大人が何を見ているか、自分たちにどうなつてほしいと思つているのか、ということ子どもは大人が思つている以上に、読み取る力がある。

であるからこそ、関わる大人たちには責任がある。子どもを見つめる視線が子どもの未来を作つていくからである。

## 2. デイスカッション

子どもの未来を作っていく大人の視線を認識するために、後半では、私たちはどんな思いを子どもたちに発信していけばいいのかを一緒に話し合った。その眼差しが集まったところに、神様が「よかった」と言われる世界観が見えてくるのではないかと考えたからである。子どもたちの心が伸びやかに育つには、関わる人たちが何を考えて、何を発信するかが、何よりも重要になるとSolaは考えている。

「よかった、という世界をつくろう!」というテーマで、分科会に参加してくださった方々に話し合っていたいただいた後、ポストイットに「よかった世界」を書き出してもらった。いくつか紹介しておこう。

「一緒に食事をする」

「笑い」

「一緒に時間をすごす」

「安心」

「おいしい空気を吸うこと」

「時間」

「思いやる」

「世界との接点」

「子どもの才能を伸ばす」

「大きくても小さくてもいいから希望」

「自分は愛されていると心から思える時間」

「感情を素直に出せる」

「みんなでなかよく」

参加者のコメントに共通しているのは、「共に」「未来を見つめる」というキーワードのように思われた。

今日をどのようにして生きていくか、それをおきなりにして未来は作ることができない。そしてそれを一番実行しているのは、子どもたちなのだと思う。未来を作っていくことは簡単なことではないが、日常で大切なことを見つめていけば、かならず実現するのだと考えている。